



わずかに青空ものぞく無風のもとに始まりましたが次第に西寄りの風が強くなり、体感温度は下がり続けました。挨拶を終え歩き始めた時、南からミサゴが飛来しました。幸先がいいと思いましたが、水辺も含め冬鳥の少なさは相変わらずです。



**ミサゴ獲物に肉薄す**

のですが、一回目は失敗します。舞い上がって旋回し二度目、見事に成功しました…



…獲物を捕らえ飛び去るミサゴです。足元を見たら何と魚がありませんでした。



ずーと見ていたのですが落とされたのに、いつ落とされたのでしょうか？ ミサゴは魚を捕ることに特化した体の仕組みをもっているはずなのに…

…オオタカやノスリの足の指は進行方向に指を開いてしか掴むことはできません。ミサゴの場合は、左下の画像のように足を前後に開き、手のひらを向かい合わせたような形にして魚をつかむことができるのです。タカの仲間の目もすごい力を持っています。低く飛んできてすぐ獲物を見つけ、魚の動きを見極め一瞬を見逃さず獲物をつかむことができるのです。



**ツグミ** 12月の中頃に初めて見かけ、その後数が増えてくるかと思ったのですが、少ないままでした。羽の間に空気を含ませて太って見えます。



**冬鳥カンムリカイツブリ**はいつも通り 大まかに勘定して 250羽ほどの群でした。留鳥のカイツブリと同じ仲間、シベリア南部から渡ってきている冬鳥です。これから春の渡りに向け、夏羽に変わっている鳥を見かけるようになります。



**ムネアカハラビロカマキリ卵**  
 のう コナラの枝先に、丸くて白い中に茶色い筋が見えたのでてっきりイラガの繭だと思いましたが、ムネアカハラビロカマキリの卵でした。



**ウスバタケ**

白色腐朽菌。木材を分解する能力が高くセルロースだけでなく多糖類、タンパク質をも効率よく分解できるそうです。広葉樹の枯木に発生するキノコの一。種です



ウメノキゴケ科の**ゴンゲンゴケの仲間** ソメイヨシノの樹皮にはいろいろな地衣類が付いています。彼らは藻類が光合成を担い菌類と共生して樹皮に固定することで生活を維持しています。



**モグラ塚に残った雪**

この周りにも雪が積もっていたはずですが溶けてしまったのでしょう。なぜかモグラ塚にだけは溶け残っていたのです。地温が低いことが原因だと思います。



**キノカワガ**

ソメイヨシノの樹皮にひっそりと止まっていた。体長は 3cm 位です。周りの樹皮...

...の模様や質感によく似ています。自分の体に似たところに止まったということでしょう。幼虫の食草はマメガキとあります。



←  
蛹

成虫で越冬しまう。木の皮に擬態しているせいか、色や模様に変異が大きいそうです。



**ジョウビタキ雄・ヤマハゼの実を齧える** コッコッと鳴きながら目の前の枝に止まり白い実を啄みました。

**植物** タネツケバナ、スイセン、セイタカアワダチソウ、ヘクソカズラ実、ノシキザクラ、冬芽（ソメイヨシノ、サルスベリ、ヤマモモ、アラカシ、ニセアカシア、チョウセンレンギョウ、タラノキ）、カラスウリ実、コナラ幼木紅葉、クロガネモチ赤い実、テイカカズラ割れた実、**昆虫** キノカワガ、みの虫の一種、羽化殻（ニイニイゼミ、ツクツクボウシ）、オオカマキリ卵のう、ハラビロカマキリ古い卵のう、ムネアカハラビロカマキリ卵のう、アリ地獄（ウスバカゲロウ幼虫）、**クモ** ギンメツキゴミグモ幼体、**鳥・その他** ジョウビタキ雌雄、メジロ群、シジュウカラ群、コゲラ、カワウ、カルガモ、マガモ、キンクロハジロ、カンムリカイツブリ 大きな群れ、オオバン、ネザサに獣道、（羊歯）ノキシノブの一種、（菌）ウメノキゴケ科ゴンゲンゴケのの仲間、ウスバタケ、

次回2月10日(木)午前9時30分水資源機構P前、参加費100円・コロナ非常事

態下と雨天は中止